

インターンシップ派遣対象留学生に対する日本語指導と通常授業とのリンクの試み

百瀬みのり（大阪大学大学院院生，三重大学国際交流センター非常勤講師）

研究概要

【目的】

インターンシップ派遣対象留学生（IS生）への日本語指導と、通常授業をリンク（連携）させる。

【問題点】

IS生に対する日本語指導は、IS生の企業派遣直前に臨時的に行われる場合が多い。その結果、

- IS生に授業内容が定着しにくい…。
- IS生対象の日本語指導と、通常授業とがリンク（連携）しにくい…。

問題点解消のために

【試み1】「マナー・敬語の早口ことば」の唱和の実施

- 〔あ〕足を組まない。ゆらさない。
- 〔い〕「今、お時間よろしいですか。」
- 〔う〕腕組み、ポケットはno。
- 〔え〕笑顔で挨拶。
- 〔お〕「お先に失礼いたします。」

これらの標語を授業前にクラス全体で唱和する。慣れたら早口ことばにし、授業前に行う口のウォーミングアップとして活用する。

【試み2】インターンシップ経験についての作文課題の実施

① IS生に、勤労体験について作文課題を課す。その際に、インターンシップの時期に通常授業で履修済みの漢字、語彙、文法項目を使うように指示する。

（タスク例：【『みんなの日本語中級I』の1課「明るい」、「印象」の漢字、2課「アポ」、「アドバイス」の単語、3課「～（さ）せていただけませんか」の文法項目を使って、インターンシップでの就労体験について作文を書きなさい。）

② 教師が作文を添削してIS生に返却する。

【試み3】3分スピーチとスキニング課題の実施

① 【試み2】の作文を基に、IS生に就労体験を3分スピーチする課題を課す。

② 非IS生に「話を聞いて（ ）に正しい語を書きなさい。」とスキニング課題を課す。

③ 上記②を基に非IS生にも、IS生の就労体験に対する自分の意見を書く作文課題を課す（履修項目の使用などの指示や事後の教師の添削も【試み2】と同様に行う）。

結果

上記の【試み】を行った結果、

- ・IS生に対する日本語指導と通常授業の有効なリンク（連携）
- ・IS生、非IS生双方に学習態度の向上、クラスの連携が見られた。

